

はらむらばいえん

# 原村梅園関連石碑

所在地：多摩川二丁目児童公園 多摩川2-13

交通アクセス：東急多摩川線矢口渡駅から徒歩6分

公開の有無：常時公開



原村梅園は、明治16年（1883）に原村の名主であった原清次郎<sup>はらせいじろう</sup>が、梅の実を採る目的で約2000坪（6600平方メートル）の地に300株の梅樹を植えたことにはじまります。翌17年には月岡芳年<sup>つきおかよしとし</sup>の「全盛四季春 荏原郡原村立春梅図」のなかで、川崎の小向梅林<sup>こむかいばいりん</sup>とともに、原村梅園が梅の名所であることが紹介されています。その後、明治26年以降は転々と所有者を替えながら存続していましたが、昭和11年（1936）に工場用地として没収され、翌年には跡地が工場となりました。跡地に残されていた3基の石碑が、いまは多摩川二丁目児童公園の一角に集められており、かつての面影を伝えています。

## 「明治天皇御製碑」

（銘文）梅の花咲けるを見れば降る雪に／冬こもる身のはつかしきかな／文学博士 前田慧雲謹写 田鶴年鐫

## 「立春梅碑」

園内にあった「立春梅」は、亀戸梅園<sup>かめいどばいえん</sup>の臥菴梅<sup>がりゆうばい</sup>とともに名木として知られました。

## 「芭蕉句碑」

（銘文）芭蕉翁／梅香にのつと日の出る山路哉／[ ]十七年春三月日／幸島桂花拜書

※幸島桂花は原氏の後援者で、日本橋室町の算盤商<sup>そろばん</sup>です。

